



今回は、地域における実践活動の報告です。

◇ 関高生、地域へ ～持続可能な地域社会の創造をめざす～

ふるさとの自然・文化・産業に愛着を持ち、積極的に地域の諸課題に取り組む生徒。

関高校 SGH の目標には、郷土愛あふれる若者の育成が掲げられています。関高校が所在する岐阜県中濃地区も、押し寄せるグローバル化や少子高齢化の波、悪化する地球環境、長期に渡る経済の停滞などの諸問題により、予想外の変容を余儀なくされています。こうした諸課題にどのように対処し、ふるさと岐阜をいかにして維持・発展に導くか。関高は地域をめぐる諸課題、すなわちグローバルイシューに対し、実践的な活動を続けつつ取り組んでいます。

◇ 地域と関わる実践活動の具体例

MSリーダーズ、自転車運転免許講習会、関高掃除隊、関特支との交流、介護施設訪問、ユニセフ募金、命を守る訓練、中部学院大・手話講座、PTA文化祭バザー(ふるさとグルメフェア)、高校生ぶうめらん、DDGカフェ、関市立図書館文化講座、美濃加茂市民ミュージアム・ミュージアムトーク、小中学生オープンキャンパス、外国人児童への教育支援活動、ハガキ寄付活動、関市「まちづくり倶楽部」、岐阜県スーパーハイスクールセッション、1年生課題研究(関の刃物を世界に売り込もう)

関高校では、地域をめぐる諸課題に寄与するため、生徒会や各種委員会、各部活動、LHR 活動、SGH 活動等を中心に、様々な活動に取り組んでいます。

◇ プラチナ社会構想と新たな地域社会の創造

世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本は、世界のフロントランナーともいふべき存在となりました。人類史が未だ経験したことのない領域へと足を踏み入れつつあります。グローバリズムとナショナリズムの確執、悪化する地球環境、経済の停滞と格差の拡大といった諸問題に、果たして日本がどのように対処するのか。世界の国々、とりわけ近隣のアジア諸国は日本の動向を、固唾を飲んで見守っています。

小宮山宏・三菱総合研究所理事長は、地球環境問題と少子高齢化問題を解決した理想社会を「プラチナ社会」と命名、「プラチナ社会」の創造を契機とするイノベーションの必要性を提言し「プラチナ構想」と呼んでいます。さらに日本政府も「地方創生」に向けた具体的構想として、ICT 活用を軸とする「スマートプラチナ社会」を提唱するに至りました。

プラチナは金より高価で品格のある貴金属。しかも銀(シルバー)のように酸化しません。ともすればネガティブなイメージを与えがちなシルバーの語に換えてプラチナの名を冠することにより、社会変革に向けての積極的な気概を示す。関高校のSGH 活動も、プラチナ社会構想に学びつつ、地域との連携を深めていきたいと思えます。



2017年、関高SGHは第2ステージへ。地域課題の発見・解決にもしっかり取り組みます。